

都市基盤分野 政策 1 「地域の特性を活かしたまちづくりの推進」

目指す姿 1

それぞれの地域においてコンパクトなまちづくりが進み、暮らしやすく活力ある都市となっている。

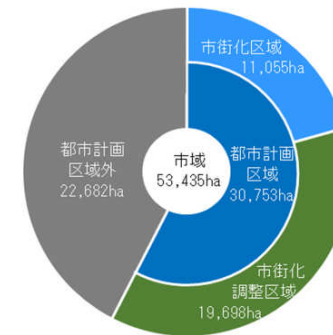
【現状と課題】

- 市域が広い本市には、姫路駅を中心とした市街地をはじめ森林丘陵地域、田園地域、群島地域などの多様な地理的特性があります。
- 人口が減少する中、将来、都市の低密度化が進み、地域によっては都市機能の維持が困難になることが懸念されています。
- 山陽本線等の連続立体交差事業の完了や、南北を結ぶ都市計画道路や南北駅前広場等の整備により、JR 姫路駅を中心に南北市街地の一体化や歩行者中心のまちづくりが進んでいます。
- これまで別所地区や垣内津市場地区など市内の計 81 地区で土地区画整理事業を実施し、市街地の形成を計画的に進めています。
- 年齢、障害の有無等に関わらず誰もが暮らしやすい都市になるためには、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを進める必要があります。

【目指す姿を実現するための方向性】

人 地 域	ア 地域の実情に応じた住民主体のまちづくり 地区計画制度や特別指定区域制度などの活用により地域の実情に応じた住民主体のまちづくりを進めます。
	イ 賑わいあふれた「人」中心のまちなかづくり 快適な歩行者空間を整備するとともに、公民が連携して道路等の公共空間を活用し賑わいを創出することで、居心地が良く歩きたくなる「人」中心のまちなかづくりを進めます。
活 力	ウ ユニバーサルデザインのまちづくり 公益的施設や道路などにおけるバリアフリー化の促進や、多言語案内サインの整備など、高齢者や障害者、外国人をはじめ、誰もが安心して生活できるまちづくりを進めます。
土 台	エ 地域の特性に応じた計画的なまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○ 各地域が相互に連携・補完し合うコンパクトなまちづくりを計画的に進めるために、居住や都市機能を適切に規制・誘導するなど、地域の特性に応じた土地利用を推進します。 ○ 阿保地区や英賀保駅周辺地区などにおいて、土地区画整理事業により良好な市街地の形成を進めます。

※関連データ：姫路の土地利用状況（平成 30 年 3 月現在）



(資料) 都市計画用途地域

目指す姿 2

姫路城周辺や歴史的な町並みなど地域の美しい景観が、都市の魅力の源となっている。

【現状と課題】

- 本市は、姫路城をはじめ、旧城下町や旧宿場町の面影が残る歴史的な町並みや豊かな自然など様々な美しい景観を有しています。一方で、周辺景観に調和しない建物や屋外広告物などによる景観への影響が課題となっています。
- すぐれた景観は市民にとってかけがえのない共有財産となることから、それぞれの地域の景観に対する市民の愛着や親しみを育みながら、世代を超えて大切に受け継ぐ必要があります。

【目指す姿を実現するための方向性】

人	オ 景観に対する市民意識の高揚 景観遺産の活用や都市景観賞の表彰などにより、歴史的景観、自然的景観、都市的景観の保全・形成に対する市民意識の高揚を図ります。
地域	
活 力	カ 姫路らしい魅力ある景観の保全と創出 ○ 良好な景観の形成に向けて活動する市民や地域への支援等を通じて景観の保全を図るとともに、地域資源や地域特性を活かした姫路らしい魅力ある景観づくりを進めます。 ○ 世界文化遺産・姫路城を核とした世界に誇れる景観の魅力をさらに高めるため、姫路城を眺望することができる都市空間づくりや、姫路城と調和した周辺景観の形成に取り組みます。
土 台	キ 規制による景観誘導 屋外広告物や建築物の色彩などの規制により、周辺景観と調和を図られるよう誘導します。

市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること

市 民	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自分の住んでいる地域の良さを知り、さらに姫路のまちに愛着を持ちましょう。 ➢ 身近な景観を市民共有の財産として大切に守り、引き継いでいきましょう。
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地区計画の活用や景観形成地区の指定など、地域での自発的なルールづくりにより、地域の魅力や賑わいを創出しましょう。
企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 誰もが快適に暮らせるよう、ユニバーサルデザインに取り組むとともに、周辺環境に配慮した景観の形成を心がけましょう。